



53

53 なさけの庭 児島虎次郎

明治四十年(一九〇七) 一面 三の丸尚蔵館

54 岡山孤児院本院並分院写真帖 岡山孤児院

明治四十三年(一九一〇) 全二冊のうち一冊 図書寮文庫

55 岡山孤児院関連資料(明治天皇御手許書類より)

岡山孤児院

明治四十三年(一九一〇) 全七点のうち 宮内公文書館

岡山孤児院は慈善事業家石井十次が設立した孤児救済施設である。洋画家児島虎次郎(一八八一―一九二九)による「なさけの庭」は岡山孤児院に取材した作品で、明治四十年の東京府勸業博覧会へ出品されて一等賞受賞、宮内省買上の榮譽を受けた、児島の出世作として知られる。児島は、後援者であった大原孫三郎が岡山孤児院の支援していたことから、大原を通じて石井と知り合った。室内の宗教画を背景にして人物が仄かに浮かび上がる逆光表現のなかに、キリスト教信者であった石井や大原らの影響による崇高な宗教性が感じられる作品である。本図が描かれたのは、三十八年の日露戦争の戦争孤児や、翌年の東北地方の凶作による一家離散などによって、収容する孤児の数が大幅に増えた時期に当たる。

岡山孤児院に対しては、「なさけの庭」の買上以前の三十七年に明治天皇・皇后(昭憲皇太后)より二千元、翌三十八年からは十年間にわたり毎年一千元ずつが下賜されており、その慈善活動は皇室からも関心を集めるものであった。四十三年十一月の岡山県下行幸に際しては、明治天皇が侍従米田虎雄を差遣し、御手許書類に含まれる関連資料と、もともとその中に含まれていた「岡山孤児院写真帖」が米田侍従によって持ち帰られた。写真帖には孤児院の施設や周辺環境、授業風景などととも、ロシア人や朝鮮人の孤児の写真が含まれており、石井の孤児救済活動の対象が広範であったことがうかがえる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治天皇 邦を知り国を治める——近代の国見と天皇のまなざし

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 67

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年一月十日発行

© 2015, The Archives and Mausolea Department
The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan
Imperial Household Agency